

今学校では

新潟市立関屋中学校 No. 7

電話 025-266-4131

<http://www.sekiya-j.city-niigata.ed.jp/>

2024 年 1 2 月 6 日 発行

成長の話

教頭 長谷川 淳

10月15日の後期始業式で、「成長」について、スライドを用いて以下のように全校生徒に話をさせていただきました。

できること

何を
すれば

青色の○はみなさんが、今、できることを表しています。後期の初日がこの大きさです。

この○は自然に大きくなりません。3月の終業式の日には、できることを大きくするためには、何をすればいいでしょうか？

学校生活で考えます。

できること

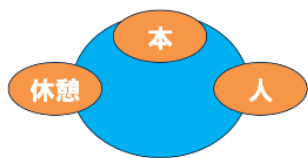


できることが広がる＝成長ですが、この○は自然に大きくなりません。何もしないとこの○は、、、しぼんでしまいます。

成長をしていく上で、いろいろなものから**気付き**を得ることがあります。

一つ目は**「人」**、自分一人で頑張るだけではなく、クラスの人、先輩、後輩、先生を含む大人などなど、これまでの生活でいろいろな人と出会ったと思います。いい出会いが増えていくと、いい気付きを得て、行動が変わり、成長を早めます。二つ目は**「本」**、本には漫画も含みます。自分の心に「ずしん」とくる気付きは、自分を成長させてくれます。三つ目は**「休憩」**、成長をしようと頑張る続けるのはしんどいですね。ほっと一息ついたり、趣味に没頭するというのも成長には必要です。

気付き×行動＝成長



これからの生活でみなさんは、人からの気付きが増えていく、、、本からの気付きが増えていく、休憩から気付きが増えていく、そのことで、知識や経験が増え、できることが広がり成長していくと思います。

大切なのは



一歩を踏み出そう！

ですので気付いたら、行動しましょう！

行動することで、気付くこともあります。

成長するのに大切なのは

自分から、、、一歩を踏み出しましょう！

♪ 音楽発表会 ♪

10月22日（火）りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館にて、全校生徒による音楽発表会が行われました。クラス合唱、学年合唱、パイプオルガン演奏、吹奏楽部の演奏と盛りだくさんの発表が行われました。どの発表もすばらしく、心振るわされる歌声と、心が洗われる神聖なパイプオルガンの響き、心も弾む吹奏楽の音色に、感動しきりの音楽発表会でした。大変多くの保護者の皆様にご来場いただきありがとうございました。

3学年合唱
ヒカリ



2学年合唱
時の旅人

1学年合唱
夢の世界を



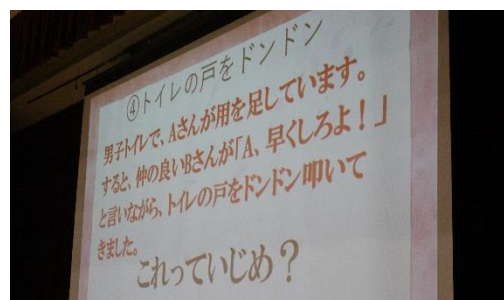
パイプ
オルガン演奏
石丸由佳様

吹奏楽部演奏



思いやり集会

校内でのいじめや嫌がらせを、生徒自身の手で無くそうという意欲を高め、よりよい関屋中学校を自分たちの手で創っていく、というねらいのもと生徒会が主体となって、11月29日に「いじめ見逃しゼロ 思いやり集会」が行われました。学校生活でのありがちないじめにいたる場面の劇やいじめかどうかを全校に問い、青ピンクの紙で挙手させるなど、生徒一人ひとりが自分ごととして、いじめを考える時間となりました。学校運営協議会の方も集会に参加し、生徒の中に入って活動してくださりました。



第31回 NIE 新聞記事感想文コンクールに入賞しました！



県内の小、中、高等学校から計20校、応募数1333編の中から、大賞に2年生の今井啓雄さん、会長賞に2年生の村山実乃里さんが選ばれ、10月16日関屋中学校校長室にて、新潟県新聞活用教育（NIE）推進協議会会長伊藤充様より、賞状と盾、副賞が贈られました。

一步成長した



会長賞

村山 実乃里さん

新潟・関屋中2年

皆さんは、新聞の連載記事である「14歳の君へ」を読んだことがあるだろうか。私はまさに今、14歳である。青春のど真ん中、思春期のど真ん中、アオハルである。

この「14歳の君へ」の中では人生の先輩方が、自分の人生経験から、さまざまなアドバイスしてくれる。だが、そのアドバイスは決して押しつけたりするものではなく、どれも14歳思春期の私たちに寄り添ってくれたり、応援してくれたりするものばかりだ。14年しか生きていない私たちが、今まで見聞きした世界は狭く、広い世界や社会がまだまだ先にあるのだと教えてくれた。

恥ずかしいはなしだが、私は新聞をたまにしか読まない。中学生になった私たちが姉妹に向けて、母が新聞の切り抜きを渡してくれたのを知りきった。しかし、そこは思春期、そんな押しつけがましい母の行動を素直に受けとるわけにはいかない。すると母はトイレに記事が出る度に貼りはじめた。いいことが書いてあるから読ませたい母の予想はまんまと的中した。気がつけば、私は新しい記事が貼られるのを待ち望むようになった。

新聞を1人でじっくり読むのも楽しい。しかし、私たち親子のように新聞記事を通してつながるのもっと楽しい。読み手が変われば感じ方も変わると思うからだ。ぜひ皆さんにも新聞記事を誰かと共有することをおすすめしたい。

新聞を通してコミュニケーションの一助となれば、新聞の可能性はさらに大きなものになるだろう。

そして、情報収集をスマートフォンに頼りがちな生活を送っていることに気がついた。簡単に検索できるスマートフォンはとても便利だ。しかし、検索を重ねる中で、興味がある情報がよく目につくようになり、見たくない情報はよく目にする頻度が減っていることに気がついた。

自分の視野を狭めるのではなく、幅広く情報を得られる新聞を読もうと思った。



大賞

今井 啓雄さん

新潟・関屋中2年

私の家から少し自転車をこぐと大きく穏やかな信濃川が流れている。春はやすらぎ堤の桜とチューリップが咲き誇り、夜には「ぼんぼり」が点灯し美しい信濃川の夜景とともに楽しめる。夏の新潟まつりは信濃川を舞台に壮大な花火大会が繰り広げられ多くの観光客が来て、大勢の笑顔と笑い声が包まれる。そんな大好きな街を今まで当たり前のよう走り抜けてきた。

そんな当たり前が一変したのは「向き合う」新潟地震60年」とタイトルがついた新聞の特集記事と写真を見たからだ。60年前に新潟を襲ったマグニチュード7.5の新潟地震は、特に新潟市内で大きな被害が起った。液化現象で鉄筋コンクリート造のアパートは倒壊、完全鎮火するまで2週間を要した石油タンクの火災、信濃川に架かる昭和大橋の落橋など構造物に大きな被害が出た。また、死者・負傷者が多数出た。

震災については、これまで学校の授業で学び、祖父父母からも話を聞いたことがあった。その際、昔の写真も見せてもらったが震災直後のものではなかった。今回新聞によって映し出された写真は震災の恐怖と悲惨さを伝える生々しいものだった。さらに新聞の記事によれば余震におびえ眠れない夜を過ごしたことや炊き出しのおにぎりを食べてようやく人々が食ったことなど人々の苦難の様子が書かれていた。

私はこの新聞を通して、新潟のリアルな歴史に触れることができた。新聞は今起きている新しい情報を伝えるだけでなく、どの時代の「生きる」にもつながる情報を与えてくれている。地震から60年が過ぎ新潟地震を体験していない50代以下の県民は6割を占める。だからこそ新聞の色あせない情報は、次世代に生きる人々の知恵となり、備えとなるだろう。

新聞は、幅広い情報だけでなく小さな声にも寄り添っている。だからこそ新聞を身近で確かな情報源として読み続けたい。

六十年前からのメッセージ



今井啓雄さんが読んだ新潟日報（6月15日付）の記事

村山実乃里さんが読んだ新潟日報（7月28日付）の記事

アドバイスが心に響く

村山実乃里さん

新聞は地域のニュースを中心に、主に週末にじっくり読んでいます。「14歳の君へ」は勉強や学校生活での悩みについてのアドバイスが、心に響くことが多いです。スマホだと自分の好きな情報ばかりになるけ

ど、新聞は幅広い情報を知ることができます。今後いろいろなことを学んでいきたいです。受賞はすごくうれしかったです。審査結果発表の記事を見た母や親戚もとても喜んでくれました。

地震対応 考える機会に

今井啓雄さん

60年前の新潟地震の生々しく、痛々しい写真が目に残りました。大地震が起きたらどうなるのか、どうしたらいいのかを学ぶ機会になりました。先日も中越地震から20年の記事を読みましたが、新聞は写真

と一緒に内容をまとめてあり、理解を深めることができます。今回の受賞は、審査結果の記事を見た父から教えてもらい、とてもうれしかったです。今後も新聞を読み続けていきたいです。